

新風

しんぷう
Vol.24

あなただまに
が ン ば れ 菊 池 ! 市 民 と 共 に 郷 土 つ づ くり

前川おさむ県政だより ※再生紙を使用しています。 平成14年7月



Osamu Maekawa

前川おさむ後援会

事務所/〒861-1306 菊池市大琳寺198-1
TEL.0968-24-2171 FAX.0968-24-2855

E-mail:maekawa@mb.infobears.ne.jp

暑中お見舞い
申し上げます。



いよいよ夏本番となりましたが、皆様
いかがお過ごしでしょうか。

わたしは、六月議会で一般質問を行な
い、市町村合併や産廃公共関与、国道三
二五号の問題を、潮谷知事はじめ県執行
部に質し、いくつかの成果を上げることが
出来ました。

特に、産廃公共関与処分場の建設につ
いて、県内民間処分場の残余容量の現状。
つまり県内の七割を示める菊池市と八代
市の民間処分場があると四年で満杯となり、
その後の拡張が困難である理由の説明や、
民間に委ねられている産廃の制度上の矛
盾等を論点とし、行政主体の処分場建設
の必要性を潮谷知事に訴えました。知事
からは「七月中に排出業者と処理業者、
市町村、有識者で公共関与基本計画策
定検討委を設置し、年内に(計画を)策

定したい。民間による整備が困難な状況
で、処分場が不足することがないよう取
り組む」と、はじめて行政主体で処分場
整備を進める方針が示されました。

この答弁は、これまで産廃問題で苦し
み心配をしてきた、市民の皆様にとっても
産廃処理システムを変えていく、大きな
第一歩であると高く評価するものであり
ます。

また、菊池市と大津町を結ぶ幹線道
路である国道三二五号についても平成十
七年に現在の工事区間が終了し、引き続
き平成十八年より菊池市方面へ向けた
四車線化整備が行なわれる事になりま
した。また市街地部分を含め路線計画が
決まっていますが、地域振興にプラスに
なる道路にする為には、地権者をはじめ
とした多くの市民の議論と協力が必要
であると考えております。

県政の主要課題は、財政健全化、市町
村合併、川辺川ダム問題等であります。
市民の代弁者として、皆様の意見を聞き
ながら頑張っていきたいと思っております。
まだまだ暑い日が続くと思います。皆
様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

前川 收

前川收後援会の 第3回

たい 夏祭り 2002 のご案内

- 日時→平成14年8月1日(木)
午後5:00開場 午後9:00終宴
- 場所→前川收後援会事務所(特設会場)
菊池市大琳寺198-1 TEL.24-2171
- 主催/前川收後援会夏祭り2002実行委員会

- ☆催し物(予定)
 - ・カラオケ大会・ビンゴゲーム
 - ・ラムネ、ビール早飲み大会
 - ・お楽しみ抽選会 etc...
- ☆出店(予定)
 - ・金魚すくい・ヨーヨーすくい・射的
 - ・生ビール・かき氷・焼鳥・焼きそば・おにぎり
 - ・よもぎ団子・やまめ焼餅 etc...



みなさまのご参加
お待ちしております。



▲福村三男市長と。



▲三浦一水参議院議員と。

質一般議会

六月定例

が何をポイントとして購入するか、さらに売れ筋商品などの情報を把握分析し、産地にフードバックしながら生産体制の整備に活用して参りたい。

2、家畜排泄物の処理について

家畜排泄物法の規制対象となり、不適切な状況の解消していない畜産農家について、平成十六年十月までにどのような対策をとるのか。畜産環境施設の整備に伴い、大量の堆肥が生産されることになるが、今後堆肥の流通について、どのように対処していくのか。

農政部長(答弁)

整備の方法としては、農家の申請に基づき、国及び県の補助事業で全体の約二割、またリース事業で約二割の農家について整備を行いたい。残りの約六割については、比較的簡易な対応で不適切な状況の解消が図られる見込みで、制度資金等も利用しながら速やかな改善を

図るよう指導していく。現在県及び農業団体が構成する熊本県良質堆肥利用促進協議会が、堆肥の利用情報の収集提供、技術の普及、研修会等を行い、利用拡大を図っている。今後は国や県の事業を利用して、散布機の導入等、耕種サイドが利用しやすい条件を整え、広域流通の二層の拡大を図る。

質問4 九州新幹線建設をはじめとした県内企業の受注機会確保について

県内業者の新幹線工事をはじめとした受注機会の確保について

県内経済がかつて経験したことがない、きびしい環境にある事を、県はどう認識されているのか、県内企業の育成について土木部長の所見をお尋ねいたします。

土木部長(答弁)

県としてはこれまで発注者である日本鉄道建設公団に対し県内企業の受注機会の確保を機会あることに要望してきた。次に、建設産業は、地域経済や雇用等を支える

産廃処理 「公共関与は必要」 県議会 知事初めて言明

一般質問 知事初めて言明



六月定例県議会が十五日(一)一般質問終了後、九日(一)に産廃処理の特別委員会(以下「特別委」と呼ぶ)を設置し、産廃処理の現状と今後の対応について、知事から初めて言明が行われた。特別委は、産廃処理の現状と今後の対応について、知事から初めて言明が行われた。特別委は、産廃処理の現状と今後の対応について、知事から初めて言明が行われた。

川辺川ダム物足りない論戦

六月定例県議会が十五日(一)一般質問終了後、九日(一)に川辺川ダム物足りない論戦が行われた。特別委は、川辺川ダムの物足りなさをめぐり、知事から初めて言明が行われた。特別委は、川辺川ダムの物足りなさをめぐり、知事から初めて言明が行われた。

質問5 国道三百二十五号菊池市の改良計画について

現在、旭志村と泗水町境までの計画とし

て工事が進められておりますが、車で通りますと渋滞は菊池市森北の農免道路との交差点と菊池市市街地がひどく、特に朝の通勤・通学時は顕著なものがおります。この実態の解消の為に、事業の延伸が当然と思われませんが、市街地部分については既に菊池市議会において、市街地の活性化に最も有効と思われる現道の拡幅を決議されております。平成十年九月議会で当時の土木部長も「菊池市内の四車線が必要で事業採択に努力」と答弁されております。旭志村から菊池市市街地への四車線化の取り組みの中で、その具体的な着工時期について土木部長にお尋ねします。

土木部長(答弁)

現在、大津町から旭志村間三、五キロメートル区間で四車線拡幅工事を実施しており、平成十七年度の完成を目指している。

また、旭志村から菊池市街地方面への四車線化拡幅工事の延伸も必要と認識している。大津町から旭志村間の拡幅工事が完成に引き続き着手すべく、国及び関係市町村と協議して参りたい。

質問6 竜門ダムについて

地元配慮したダムの管理について

竜門ダムからの放流においては、ダム管理者の考えに加え、地域住民の生活や河川状況がよく分かっている地元関係者の意見を反映することにより、選択取水施設のよりの確な操作を行うなど、よりよい運用ができるものと考えています。

このため、竜門ダムの運用に際し、地元の意見を反映する受け皿として、ダム管理者と地元との協議会的なものが必要ではないかと考えています。県としての考えを土木部長にお尋ねいたします。

土木部長(答弁)

利水等の放流に対する協議会は組織されていない、よって、地元の意見を反映できる協議会は必要と思うので、このような協議会を設けるよう、国土交通省へ要望して参りたい。

●ユニバーサルデザイン(UD)について

「ユニバーサル」は、普遍的な、万人のという意味です。つまり「ユニバーサルデザイン(UD)」とは、年齢、性別、国籍や障害の有無等に関係なく、最初からだれもが利用できるような製品、建物や環境、情報・サービス等のデザインを意味しています。「バリアフリー」が障害のある方や高齢者が生活していく上での障壁を取り除いていこうという考え方であるのに対して、UDは最初から障壁となるようなものを作らないという考え方です。

熊本の街を走る「超低床電車」や車椅子利用者だけでなく子ども連れの人にも便利な「多目的トイレ」等の例があります。UDの考え方を反映させた製品やサービスは、今後、重要な産業に発展し、最終的には16兆円市場になるのではないかと予測されています。

UDの考え方は、近年、急速に市民権を得つつありますが、背景には高齢化社会の進展があります。特に、熊本県は全国平均より7年早く高齢化が進んでおり、2020年には、3人に1人が65歳以上の高齢者になると予測されています。年をとると様々な運動機能の低下が現れてきます。だれもが暮らしやすい社会を作っていくことは、仮に今は健康な人にとっても、決して無縁ではないのです。

熊本県では、UDを県政の大きな柱に掲げています。本年2月に「くまもとユニバーサルデザイン振興指針」が策定されましたが、これは、県や企業・団体だけではなく、県民が果たす役割等も具体的に示されています。

この指針に沿って、県では公共建築物のUD整備指針作りや県庁舎改修に伴うUD化等が進められています。また、UDを皆様に身近に理解していただくために、今秋にUDファッションフェアが開催されます。このようなUDに関する情報は、ホームページ(UD・ネット <http://ud-kumamoto.rkk.ne.jp/>)上に掲載されており、是非ご覧いただきたいと思っております。

子どもからおとしよりまで、「だれもが暮らしやすい豊かなくまもと」の実現を目指して、UD推進の取組みを展開していきたいと考えています。

●川辺川ダムを考える住民討論集会について

川辺川ダム事業は、昭和38年から3年連続して起こった球磨川の洪水被害を契機として、尊い流域住民の生命・財産を守るための基盤として不可欠という観点から推進されてきた事業です。しかし、昨年11月、川辺川研究会を始めとする市民団体から、ダムによらず流域の生命・財産を守ることができるとする代替案が、県民に向けて具体的な形で発表されました。

住民討論集会は、この代替案が、ダムに替わる具体的かつ妥当な選択肢たり得るのかについて、事業主体である国土交通省が、県民に対する説明責任を果たすために開催されています。

第1回目の昨年12月は県主催、本年2月の第2回目以降は国土交通省の主催で開催され、県は、公正で有意義な議論となるよう、総合調整の役割を担っています。

去る6月23日(日)に、第3回目の住民討論集会が、相良村総合体育館で開催されました。今回は、討論集会前日の22日(土)に、八代市、人吉市、球磨郡内の7カ所について現地視察が行われ、各視察地とも賛否両派に加え、多数の地元住民の方が参加されました。また、討論集会は、第2回に引き続き「治水」をテーマに、森林の保水力や遊水池等について、約1800人の方々の参加のもと、約6時間半に渡って議論が行われました。



これからも皆様からのご意見を伺い、諸問題を解決し、暮らしやすい菊池市をつくることを私の政治活動の基本としていきます。少数でも構いませんので、お気軽にご連絡ください。

各地域におじゃまして、県や菊池市が抱える問題や政策について御報告し、地元の問題点や菊池市の将来像などについて皆様からご意見をお聞かせいただく機会を作る目的で、県政懇談会を開催いたします。

ふれあいトーク
前川収県政懇談会

国道387号線の道路改良工事にともない、昨年、平成13年6月29日の大雨で、古川兵戸井手へ雨水が大量に流れ込み、戸農水地区の住宅が、床上浸水の被害を受けたことで、前川県議に相談したところ、迅速に対応していただき、対策として新しい水路の設置ということで工事も終わり、私をはじめ、区民一同安心致しました。

菊池市戸農水地区 区長 松本 誠也さん



前川おさむの活動についてご意見を、お寄せ下さい。